第七講　否定形(2)

一　「全部否定」と**「部分否定」**（右が全部・左が部分）

①
常不～＝つねニ～ず／（いつも～ない）
不常～＝つねニ**ハ**～ず／（いつも～とは限らない）

（例）
常不二先ニ食一ラハ。［　　　　］（　　　　）

家貧ひんニシテ不二常得一レ油。〔家貧にして　　　　〕（家が貧しくて　　　　）

注　油…灯火の油

②
倶不～＝ともニ～ず／（両方とも～ない）
不倶～＝ともニ**ハ**～ず／（両方とも**は**～ない）

（例）　不二倶じ生一キ。［　　　　］（　　　　）

③
盡〔＝尽〕不～＝ことごとク～ず／（すべて～ない）
不盡〔＝**尽**〕～＝ことごとク**ハ**～ず／（すべて～とは限らない）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④
甚不～＝はなはダシク～ず／（ひどく～ない）
不甚～＝はなはダシク**ハ**～ず／（それほど～とは限らない）

⑤
必不～＝かならズ～ず／（必ず～ない）
不必～＝かならズ**シモ**～ず／（必ず～とは限らない）

（例）
必不レ果タサ。〔　　　　　〕（　　　　　）
不二必貴一カラ。〔　　　　　〕（　　　　　）
未二必佳一かナラ。〔　　　　　〕（　　　　　）
注　佳…立派（な人物）。

⑥
復不～＝まタ～ず／（今回もまた～ない）
不復～＝まタ～ず／（二度とは～ない）…一度はするが二度としないの意味。

（例）
復不二与ともニ言一。〔　　　　　〕（　　　　　）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

不二復与一レ言一。（　　　）（　　　）

不二復鼓一レ琴。（　　　）（　　　）

注　鼓…サ変動詞「鼓（こ）す」。「（楽器を）演奏する」という意味。

問一　「若（もシ）使ムルモ呪（まじなハ）レ臣ヲ、必ズ不トレ能ハレ行フコト」の解釈として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　もし胡僧が私に呪術をかけても、かかるとは限らないでしょう。

イ　もし陛下が私に呪術をかけても、かかるとは限らないでしょう。

ウ　もし胡僧が私に呪術をかけても、かからないとは限らないでしょう。

エ　もし胡僧が私に呪術をかけても、絶対にかからないでしょう。

問二　「未尽了。」を、すべて平仮名で書き下せ。現代仮名遣いでよい。

注　了…サ変動詞「了（りょう）す」。

問三　「不二復聴一レ之」を口語訳せよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二　「特殊な否定」①

① **未嘗〜＝いまダかつテ〜ず／（今まで一度も〜ない）**

（例）　未㆓嘗夜読㆒。［未だ嘗て夜に読まず。］

（　　　　夜中に（書物を）読んだことが　　　　。）

② **未嘗不〜＝いまダかつテ〜ずンバアラず**

（今まで一度も〜しなかったことはない＝いつも必ず〜する）

（例）　未㆔嘗不㆓束帯㆒（セ）。［　　　　　　　　］

（　　　　　　　　　　　　　　）

問四　「未㆓嘗暫（しばらクモ）去㆒」を書き下し文にせよ（送り仮名の一部を省いている）。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問五　「未ダル二嘗テ不ンバアラレ悲シマ二石荊州(せきけいしゅう)之為(な)リヲレ人ト也。」を現代語訳せよ。

注　石荊州…人名。
為人…人柄。
悲…あわれむ。

③　**不敢〜＝あへテ〜ず／（決して〜ない）**

（例）不二敢知一。〔　　　　　　　〕（　　　　　　　）

★似ているので要注意！
＊敢不〜（乎）＝あへテ〜ざランや
（どうして〜ないことがあろうか、いや〜する）

（例）敢不レ知乎。〔敢へて知らざらんや。〕
（どうして知らないことがあろうか、いや、知っている。）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④　**不敢不〜＝あへテ〜ずンバアラず**

（どうしても〜しないわけにはいかない＝必ず〜する）

（例）　不敢不尽。　〔　　　　　　　　　〕

注　尽…「尽(つく)す」。　（　　　　　　　　　）

問六　「無(カレ)二敢(ヘテ)食(ラフコト)レ我(ヲ)也。」を現代語訳せよ。

問七　「不敢不慎」を書き下し文にして、現代語訳せよ。

注　慎…「慎(つつし)む」。

〈書き下し文〉

〈現代語訳〉

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第七講

①　「不㆓復能㆑察㆓天下之言㆒」は、どう読むか。最も適当なものを次の中から選べ。

ア　ふたたびよくてんかのげんをさっせずして
イ　またてんかのげんをさっするあたはずして
ウ　てんかのげんをさっすることまたよくせずして
エ　またよくせずしててんかのげんをさっし
オ　ふたたびあたはずしててんかのげんをさっし

②　「不敢不告也」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　どうして告げないのか、いや、告げるのである。
イ　おもいきって告げないことにするのである。
ウ　どうしても告げないわけにはいかないのである。
エ　どうして告げないのかわからないのか。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

③　「其ノ為レ人、栄(はえ)アリテ二於色一ニ而敏ナリ二於行(おこなひ)ニ一。」の傍線部の読み方として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　ひとのため
イ　ひとをなすに
ウ　ひととなるに
エ　ひとをつくる
オ　ひととなり

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

【第七講】

一

①〔常に先に食らはず。〕（いつも先に食べない。）

〔家貧にして**常には油を得ず**。〕（家が貧しくて**いつも灯火の油があるとは限らない**。）

②〔倶には生きじ。〕（両方ともは生きてはいないだろう。）

⑤〔必ず果たさず。〕（必ず果たさない。）

②〔必ずしも貴からず。〕（必ず（しも）貴いとは限らない。）

〔未だ必ずしも佳ならず。〕（まだ必ず（しも）立派な人物とは限らない。）

⑥〔復た与に言はず。〕（今回もまた一緒に話さない。）

〔復た与に言はず。〕（二度とは一緒に話さない。）

〔復た琴を鼓せず。〕（二度とは琴を演奏しない。）

二

①（**今まで一度も**夜中に（書物を）読んだことが**ない**。）

②〔未だ嘗て束帯せずんばあらず。〕（今まで一度も正装しなかったことはない。）

③〔敢へて知らず。〕（決して知らない。）

④〔敢へて尽さずんばあらず。〕（どうしても尽くさないわけにはいかない。）

〔模範解答〕

問一　エ

問二　いまだことごとくはりょうせず。

問三　二度とはこれを聴かない

問四　未だ嘗て暫くも去らず

問五　今まで一度も石荊州の人柄をあわれまなかったことはないのである。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問六　決して私を食べてはいけない。

問七　**〈書き下し文〉**　敢へて慎まずんばあらず

〈現代語訳〉　どうしても慎まないわけにはいかない

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第七講　解答解説

〔解説〕

① 「復」は「また」と読み、「ふたたび」の意味。イかエに絞る。返り点通りに読むと、次に読むのは「天下～」となる。よって、正解はイ。

② 「不敢不～」は「どうしても～しないわけにはいかない」。よって、正解はウ。

③ 「為人」は重要単語。「ひととなり」と読み、「人柄」の意味。傍線部の後ろが「容貌は魅力的で行動も行き届いている。」と続くので、「性質・人柄」の意味で間違いない。よって、正解はオ。

〔解答〕

①　イ　　②　ウ　　③　オ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。